

所沢市マスコット



トコろん

豊かなみどり あふれる笑顔 みんなで明日をつくるまち所沢

第24号

環境会報

所沢市環境推進員連絡協議会

発行責任者 会長 毛利 吉成

人と人、人と自然と・・・絆を紡ぐ

所沢市環境推進員連絡協議会 会長 毛利 吉成

会員の皆様におかれましては、ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。常日頃、当連絡協議会事業運営にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、環境保全への関心と理解を深め、健康で快適な潤いのある生活環境をつくることに熱意と識見を有する1,130名の皆様が環境推進員として藤本正人所沢市長から委嘱されました。

既に行政と市民をつなぐ強力な地域の環境リーダーとしてご活躍いただいております。

また、11地区環境推進員協議会会長並びに役員の皆様方におかれましては、当連絡協議会の事業運営にご指導ご鞭撻をいただき、推進員並びに地域住民の理解に向けての情報発信等、惜しみないご協力をいただいております。心から感謝申し上げます。次第です。



推進員の責務のひとつでもある環境への理解を得、実践に向けての活動がございます。

地域の環境美化、ごみの減量・リサイクルについては、各種キャンペーンや環境講演会等をとおしての啓発活動。さらに資源化、再使用に向けての拠点回収の協力、そして、街をいつもきれいにしておこう、みんなできれいにしていこうと所沢市民が同じ目的で参加しておこなわれる「環境美化の日」を通しての、コミュニティー活動がございます。

東日本大震災は、あらためて自然の脅威と畏怖の念やさまざまな教訓を私たちに与えてくれました。



環境美化の日 一斉清掃

今、所沢市では、この経験の中から未来の子どもたちに残したいマチへ・・・「マチごとエコタウン所沢構想」・・・が目指すべきマチの姿として動き出しました。エネルギー・過度な資源依存のライフスタイルの転換や、ものを大切に使う「もったいないの心」を醸成していき基本的な人の生き方に立ち返るとともに、緑を守り育て、「人と人、人と自然との絆」を紡いで



歩きたばこ防止キャンペーン

いく「エコタウン所沢」をみんなで築いていくための道しるべとなるものです。

この施策展開にあたりましては、環境推進員の新たな使命として啓発・普及事業への参加、協力活動について、大きな期待がかけられており、推進の一翼を担いその実現に向けていかなければと思っております。

どうかご理解のうえ皆様の卓越した行動力のご協力をお願い申し上げます。



メガソーラー所沢

「メガソーラー所沢」を見学してきました

新所沢東地区 魚島 克巳



去る7月17日 環境推進員連絡協議会の第2回理事会終了後、全員で「メガソーラー所沢」を見学しました。場所は狭山湖に近い森の中、トトコの森に隣接したところにある北野一般廃棄物最終処分場。

ここは平成元年4月より平成17年3月まで、クリーンセンターより出された焼却残渣、不燃残渣、水処理施設からの脱水ケーキ等、204,000m³が埋め立てられたところです。

市はこの処分場の表面部を活用し、「マチごとエコタウン所沢構想」の先導的事業及び市の再生可能

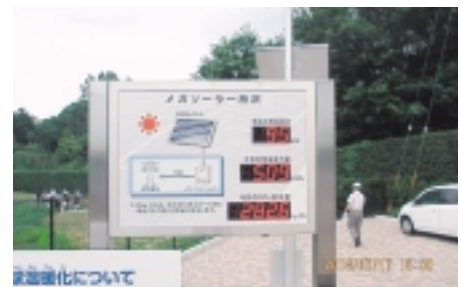
エネルギー導入のシンボルとしてメガソーラー（大規模太陽光発電）施設を設置し、平成26年3月1日より発電を開始しました。

入口をはいるとすぐ近くに見学台が設置されており、敷き詰められた太陽光パネルが一望できます。

概要説明のパネルや啓発用のパネルが解り易く掲示され、さらに今時点の発電量を示す電光掲示板も設置されていました。

この施設の主な特徴は、

- パネル架台の基礎をコンクリートにせず、2本の鋼管をクロスさせ地中に打ち込むF×T鋼管基礎とし、コスト削減とともに撤去時の廃棄物を抑制するよう考慮している。
- 風力、太陽光、蓄電池を利用したハイブリッドLED灯の設置。
- 停電時対策として可搬式リチウムイオン蓄電池の設置。
- 発電状況をホームページで閲覧できるコンテンツの整備等。



跡地17,300m²には、4,298枚の太陽光パネルが敷き詰められ、年間推定1,066メガワットを発電。本年3月より東電へ36円/kWで買い取ってもらっているとのこと。

事業期間は国の固定価格買取制度により20年間となるも、2期に分けて行い、今回は第1期分（前期10年）がスタートしました。

施設は業者が設置。市は、イニシャルコスト（予算）が平準化できる等の理由で、業者とリース方式（維持管理費込）で契約しています。

事業収支予想では、

前期： 収入(売電料) 41,654万円 支出(リース料) 54,838万円 収支-13,184万円
 後期： 収入(売電料) 39,617万円 支出(リース料) 13,200万円 収支+26,417万円
 20年間トータルの収支：+13,233万円となっております。

ちなみに、4月は530万円、5月は570万円の売電料収入があったとのこと。

ぜひ、狭山湖やトトコの森の散策を兼ね、「メガソーラー所沢」を見学してみてください。

見学を希望する方は下記にお問い合わせください
 環境クリーン部環境総務課 電話04(2998)9133

【参考】 ～メガソーラーシステムについて～

太陽光発電は、自然界から無尽蔵に供給される太陽光を電気エネルギーに変換する太陽電池セルの集合体で、太陽光を源とし発電しているため、燃料が枯渇する心配がありません。

また、火力発電などと異なり、稼働時において温室効果ガスや大気汚染、水質汚濁などもなく、タービンを使用しないので、騒音・振動などの発生もなおため、環境影響が極めて少ない特徴があります。一方、天候や時間帯等により発電量が左右されるため不安定であることや、小水力や風力など、他の再生可能エネルギーに比較して、発電コストが高いという欠点があります。

太陽光パネルから発生した電気は直流であるため、パワーコンディショナにより交流へ変換した後、高圧受電盤において昇圧（6.6kV）し、送電網へ送ります。



地球温暖化について思う

松井地区 坂下 幸雄

地球温暖化が言われて久しい。観測史上初となる異常気象が各地で発生しています。四季の変化がはっきりしている日本でも、最近では寒い冬が続き、あっという間に暑い夏が来て、ようやく涼しくなったなと思う間もなく冬が来るといった感じの季節がここ2・3年続いているように思います。

これは地球温暖化が原因と言われています。「21世紀最大の環境破壊は地球の温暖化」と多くの学者が主張されています。二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの異常な増加によって地球の気温が大幅に上昇しつつあると云うのです。



砂漠化（サヘル）

産業革命以来今日まで、平均地表気温は0.7℃上昇したそうです。今後は、それがさらに加速し2025年には2℃上昇し、21世紀の終わりには4～5℃上昇するとIPPC（気候変動に関する政府間パネル）は報告しています。

このIPPCは130を超える国が参加し、2,500名以上の専門家が報告書を作っています。それだけに権威ある報告書と言えます。地球が平均4～5℃熱くなるというのは大変なことです。インド洋に浮かぶ海拔1m以下の島々は全て海面下になると云われています。地球はこのようにして変わっていくと思われます。更に人口も現在の70億

人から2050年には90億人になると予想されており、一層の負荷がかかることとなります。地球の温暖化が人間の生存にかかわる行動、即ち生産活動に起因する温室効果ガスによるものとして、各国政府は再生可能エネルギーに置き換えて、地球の温暖化を防ごうとしているのはご承知のとおりです。しかし、IPPCと異なる学説を唱える人も少数ですがおられます。ある学者は、温暖化は二酸化炭素ガス削減努力では防げないと云います。また、温暖化で世界は水浸しになるかというそうはならない。北極の氷はほとんど海に浮いています。それが解けても凍っても海水面は変わらない、そして、南極の氷は陸地に降った雪が凍ったもので、海が温かくなると海の蒸気が大陸の中心部に雪となって降るので氷が増えると云います。そして多額の税金と努力をかけて分別したゴミのほとんどが焼却されている。従って、現状のようなCO₂対策をしても「地球の温暖化を防ぐことはできない」と主張されています。また別の学者は近年の地球の気温上昇は「地球本来の自然の変化にすぎない」と主張しています。地球の地軸は太陽に対して傾いており、4万1000年周期で行ったり来たりしている。地球は氷河期を終え、最も温暖な時期を迎えていると云うのです。したがって、地球温暖化の原因は二酸化炭素ガスの発生増が原因ではないと主張されています。このように少数ではありますが、IPPCの主張する内容とは全く異なる学説です。

私たちはこれをどう理解したらよいのでしょうか。今後この少数の学説についても十分に注意して学習する必要があると思います。この科学論争は完全に決着はついておりません。だからといって、現状の化石燃料の消費をこのまま続けていいということにはならないと思います。いづれにしても私たちはこの論争は別にしても、地球温暖化に少しでも役立つためにも、再生可能エネルギーへの転換を急がなければならないと思うのですが、皆さんはどうお考えでしょうか。（画像はすべてJCCCAのHPから）



異常気象（バングラデシュの洪水）



海面上昇（ツバル）

あいさつから地域のかへ

環境コラム

柳瀬地区 丸山 千尋



世界遺産に指定された富士山（年間登山者 約30万人）で長い間、清掃活動に携わってこられた野口健さんは「あいさつのあるところは、ごみが少なく、あいさつのないところは汚れる。」という。一般にごみの多いところには、ポイ捨てをする人が多いのが通例で、これが現代人の悲しい習性でもある。

所沢市には大量生産、大量消費を見直そうと、これもリサイクル紙で作った「家庭の資源とごみの分け方・出し方」という実にわかりやすいカラー冊子がある。そして、その兄弟誌として「集団資源回収マニュアル」がある。

これによると平成3年4月から画期的な試みとして所沢市集団資源回収報償金交付制度を実施。所沢市で行っている月曜日から金曜日までの分別収集とは別に、自治会や町内会、その他の団体が土、日等を利用し、新聞紙や段ボールなどの資源回収物を契約した取扱業者に引き渡し、市ではキロ当たり5円の報償金を自治会、町内会等の団体へ支払う。

ところがいつまでたっても新聞や雑誌、段ボールなどの資源ごみを市の「新聞・雑誌・雑がみ・段ボール」(月1回)に出さず、「燃やせるごみ」(週2回)の日に捨てる人が後を絶たず、集団資源回収がうまく

運用できていない。

これでは集団資源回収の意味がないというので、所沢市が提案してきた方法が、所沢市で月に1回収集を行っている「新聞、雑誌、雑がみ、段ボール」の日も自治会や町内会で集団資源回収を実施しないかというもの。

私が所属している自治会では、さっそく、これまで行ってきた最終日曜日の資源回収に加え、市の月1回の指定、第2火曜日にも同じ回収業者に依頼、自治会役員や集積所掃除当番の方と何回も相談、週2回の燃やせるごみの日に捨てられた段ボールや新聞、雑がみなどを月2回となった集団資源回収日に振り分ける努力をした結果、年に報償金が約30万円に増額、自治会所有の防犯灯93基の電気代に運用している。ぜひ皆さまも「新聞・雑誌・雑がみ・段ボール」(月1回)の回収日を集団資源回収としてご利用になれば、ごみの焼却費、清掃車両経費、人件費など大変な節約になる。これこそ、あいさつ・相談の力だと思う。



「環境美化の日」一斉清掃活動

5月25日(日)、春の「環境美化の日」一斉清掃活動が実施されました。天候に恵まれ、環境推進員をはじめ、自治会や多くの市民の方々にご協力を頂き、参加人数は過去最高の28,037人(内子ども3,869人)、ごみの回収量は45.23トンでした。

また、藤本市長も山口・町谷地区の活動に参加し、市民の方々とともに汗を流しました。



歩きたばこ等防止啓発キャンペーン

7月1日(火)、午後6時から市内8駅の14出口で歩きたばこ等の防止啓発キャンペーンを実施しました。キャンペーンには各地区の環境推進員271名が参加し、約1時間喫煙マナーの向上を呼びかけながら、啓発物を配りました。今回は埼玉県西部地域まちづくり協議会のメンバーである飯能市・狭山市・入間市との共同キャンペーンで、それぞれ各市内にある駅で実施しました。



今年も「ライトダウン所沢in航空公園」

所沢市では過度にエネルギーに依存してきたライフスタイルの見直し、東日本大震災での記憶の継承や家族団らんの時間の創出等を目的として、7月23日(水)に「ライトダウン所沢in航空公園」を開催しました。

当日は約450名の方が来場し、約1,300個のキャンドルの灯りの中、園内照明灯や会場付近の店舗の看板照明を消灯し、サックス演奏、合唱などのミニコンサートを楽しみました。



編集後記

小さな事から実践を」と松井地区の坂下さん。資源化、再利用への分別(ぶんべつ)は、社会の“得”となり、区別してわきまえた分別(ぶんべつ)ある行動や活動は、人の“徳”につながるのでは……。 (Mo)

編集長：荻野義雄(三ヶ島)
委員：魚島克巴(新所沢東) 久下紀世(新所沢)
新居亨一(山口)

<http://www.city.tokorozawa.saitama.jp/>
環境推進員連絡協議会を検索してアクセスしてください。